

No. 148

*** 研究テーマ**

社会的処方手法による学生支援の実践的研究

*** 研究目的**

本研究は、大学への適応に困難を抱える学生に対する支援の手法について、近年医療分野や福祉分野で注目を集めている「社会的処方」の手法を応用し、実践的な検証と手法の開発を行うものであり、臨床心理学、社会学、芸術学の知見を融合させる学際的な試みとなる。

具体的には、社会的処方における先進的な手法のひとつとして注目されている兵庫県但馬地方での「YATAI CAFE (モバイル屋台 de 健康カフェ)」の取り組みを参照しつつ、学内で月に1回程程度の屋台カフェを実践し、適応に困難を抱えつつも学生相談室やYOUステーションに支援を求めるほど深刻な状態ではないと自ら考えているような学生との出会いの場を創出し、そのような学生のための定期的な居場所となるとともに、必要に応じて適切な相談・支援機関へとつないでいくための実践的な活動を行う。それらの実践を通じて、参加者の行動形態の観察、参加者へのインタビューなどを行い、この活動の有効性を測定・評価するとともに、増加傾向にある要支援学生への効果的な介入の手法を検討・開発する。

障害のある学生をはじめとする要支援学生に対する対応は、高等教育機関における近年の喫緊の課題である。問題の深刻化を防ぐためには、敷居の低い入口を準備することが重要であるが、その方策はまだ十分に検討されているとは言い難い。本研究はそのような課題の解決に寄与するものである。

*** 研究チームメンバーと研究課題・分担課題**

服部 正 (研究幹事) 文学部・教授

研究課題：社会的処方手法による学生支援の実践的研究

阿部真大 文学部・教授

分担課題：社会におけるセフティネット研究の視点から、屋台カフェの実践の社会的意義を検証

大澤香織 文学部・教授

分担課題：臨床心理学、健康心理学、公衆衛生の視点から、屋台カフェに訪れる学生の行動分析、データ解析によって、本研究の効果測定

高石恭子 文学部・教授

分担課題：屋台カフェの活動を通じて、学生相談室の支援につなげることが望ましいと思われる学生が見つかった時に、研究チームの相談役としての役割を担い、本研究をバックアップ